

沖縄の歴史 散歩道 vol.13

◆近代遺産を巡る④

琉球史研究家の上里隆史氏が沖縄の歴史文化の魅力を本誌上で連載しています。



嘉陽グスク本殿の電球 (名護市)

注目されるのが本殿正面の上部に設置された電球です。この電球はコンクリートに埋め込まれており、実際には灯りとしては使えません。あくまでも装飾として設置されているのが面白い点です。沖縄にまず現存していない、戦前の貴重な電球といえます。なお、この地域に電気が通ったのは戦後。当時の嘉陽の人たちは



嘉陽グスクの本殿 (名護市)

琉球王国時代に築かれたグスクは、沖縄県となって以降、近代という時代の中で神社的な様相に変えられていきます。嘉陽グスク(名護市)には「嘉陽城嶽」という御嶽のある聖域ですが、1939年(昭和14年)、この地に鳥居とコンクリートの本殿が建立されました。傍らには「紀元二千六百年祭記念」碑があり、戦前における国威発揚の社会的背景のもとで御嶽を「神社化」していったことがうかがえます。

「電気のでり」にあこがれを抱き、設置したのかもしれない。

その他のグスクも次々と「神社化」されていきます。南山王の居城だった南山グスク(糸満市)には1915年(大正4年)に南山神社の鳥居が建てられ、また敷地内における高嶺小学校の建設にあわせてグスクも改変されています。北山王の居城だった今帰仁グスクにも1929年(昭和4年)に日露戦争の「英雄」東郷平八郎の書による「山北今帰仁城址」碑(戦後撤去)が、1930年(昭和5年)に平門門前に鳥居が設置されます。さらに1943年(昭和18年)には北山神社の建立が計画されます(戦争により中止)。鳥居は現在撤去され、グスクに隣接する歴史文化センターに土台が展示されています。

琉球を統一した尚巴志の出身である佐敷グスク(南城市)には、1938年(昭和13年)に月代宮が建立されました。現在でもグスク内に鳥



紀元二千六百年祭記念碑 (名護市)

上里 隆史 (うえざと・たかし)

琉球史研究家。内閣府地域活性化伝道師。法政大学沖縄文化研究所研究員。早稲田大学大学院修士課程修了。著書に『琉球という国があった』(福音館書店、2020年)、『海の王国・琉球』(ポニー・インク、2018年)、『マンガ沖縄・琉球の歴史』(河出書房新社、2016年)、『尚氏と首里城』(吉川弘文館、2015年)など。NHKドラマ「テンペスト」時代考証や、NHK「ブラタモリ」案内人などメディアでも活躍。



居と戦後再建された拝殿・本殿があります。敷地には1922年(大正11年)に沖縄史蹟保存会によって建立された「尚巴志王遺蹟」の石碑があります。碑の文字を書いたのは昭和天皇の皇太子時代に東宮侍従長をつとめた入江為守です。グスクの神社化とともに、著名な人物の碑による権威化がはかられたのです。



尚巴志王遺蹟碑 (南城市)